* 慶應義塾大学　心理学（個性）　パーソナリティ　＃３

慶應義塾大学　木島伸彦

* 日本の心理学の代表的イドラ
* 三歳児神話

　 　「三歳までは、母親が自ら育てないと、子どもは大変なことになる」（！？）

* 母原病（精神分析）

　　　「幼児期の母子関係が悪いと、子どもが大人になってから神経症になる」（！？）

* 三歳児神話に影響を与えた理論
* （　　　スピッツ　　　　　）：（　　　ホスピタリズム　　　　　）
* （　　ボウルビィ　　　　　　）

　　（　　マターナル・ディプリベーション　　　　　　　　　）（母性はく奪）

　　（　　　アタッチメント　　　　　）（愛着）

* （　　ローレンツ　　　　　　）：（　インプリンティング　　　　）
* では、なぜ３歳なのか？
* 生後間もない子猫のまぶたを縫い付ける実験（泣）
* まぶたを生後3ヶ月より前に開かせると一生目が見えるが、生後3ヶ月後も縫ったままにすると、一生目が見えない。
* この実験から、猫が3ヶ月なら、人間は３歳だろうというかなり安直な推論から出来上がったのが、「三歳児神話」の正体。
* （　　行動遺伝学　　　　　　）
* 双生児を研究対象として、人の様々な特性や病気などの遺伝の影響を遺伝と環境の両側面から検討する。
* 例．遺伝率（遺伝による総合的影響度）
* 知能は、遺伝率　約70～80％
* 体重は、約70％
* 身長は、約70％
* パーソナリティ（気質）は、約50％
* 行動遺伝学１－１
* 双生児
* 一卵性双生児（ＭＺ; monozygotic twins）と、

二卵性双生児（ＤＺ; dizygotic twins）

* ＭＺは、遺伝子情報が、１００％共通していると考える。
* ＤＺは、遺伝子情報が、５０％共通していると考える。
* 注．きょうだいの遺伝子情報の一致度は、５０％である。
* 行動遺伝学１－２
* 前提条件．

* 一卵性双生児では、遺伝子の共有度は、１００％。　→　従って、相関係数は、r=1.0
* 二卵性双生児では、遺伝子の共有度は、５０％。　　→　従って、相関係数は、r=0.5
* 一卵性・二卵性とも、（　　共有環境　　　　　　）の一致度は、１００％
* 行動遺伝学１－3
* Ａ：相加的遺伝要因
* （Ｄ：非相加的遺伝要因）
* Ｃ：共有環境要因
* Ｅ：非共有環境要因
* （　　　ポリジーン　　　　　）仮説：心理学的特性や病気などには多数の（ポリ）、遺伝子（ジーン）が関与しているという仮説。
* 行動遺伝学１－４
* （　　　　ファルコナー　　　　）の公式：Ａ = 2(rmz-rdz)
* 遺伝率の算出は、ファルコナーの公式による。
* ＭＺの気質得点の相関係数が、0.50
* ＤＺの気質得点の相関係数が、0.25　であったとする。
* rmz＝　0.50＝Ａ+Ｃ
* rdz＝　0.25＝0.5Ａ+Ｃ
* Ａ+Ｃ+Ｅ＝1
* 行動遺伝学１－５
* ＭＺの気質得点の相関係数が、0.8
* ＤＺの気質得点の相関係数が、0.55　であったとき
* 問題１：気質得点の相加的遺伝要因の割合（Ａ）を求めよ
* 問題２：共有環境要因の割合（Ｃ）を求めよ
* 問題３：非共有環境要因の割合（Ｅ）を求めよ

　答え：　A：（　50　）％　C：(　30　)％　E：(　20　)％

* 行動遺伝学１－６
* ＫＴＰ（Keio Twin Project）
* 慶應義塾大学　安藤寿康教授

　「こころは遺伝するのか」　ブルーバックス

* ジュディス・リッチ・ハリス

「子育ての大誤解」 早川書房

　　子のパーソナリティに対して親の長期的な影響はほとんどない。

* 行動遺伝学１－７　（ＫＴＰデータ）
* 行動遺伝学２－１
* 遺伝か環境か、nature or nurture
* 多くの研究結果をまとめると、気質得点に関しては、以下のとおり。
* 遺伝要因の割合は、ほぼ50％
* （　　共有環境　　　　　）の割合は、ほぼ０％
* 非共有環境の割合は、ほぼ50％
* 行動遺伝学２－２
* 行動遺伝学の研究結果

　　　ほぼ全ての特性について、共有環境がゼロに近いことが確認された

* この結果から、パーソナリティの形成にあたっては、非共有環境要因が極めて大きな働きをしていると言える
* →　親の要因よりも、友達関係の方がはるかに大きな影響を受ける、と考えられる。
* （　　DSM　　　　　）
* **D**iagnostic and **S**tatistical **M**anual of Mental Disorders
* **1980年**のDSM-III以降

　　明確な診断基準（（　　　DSM　　　　　））

　　多軸システム

　　病因論に関して中立

　　→国際的に広く受け入れられた

* 神経発達障碍　１

　　（　　　知的能力　　　　　）障碍

　 （　　　　学習　　　　）障碍

　　（　　コミュニケーション　　　　）症

　　（　　　自閉スペクトラム　　）症（アスペルガー等は除外）

　　（　　　ADHD　　　　　）

　　運動障碍

* 神経発達障碍　２
* （　　　知的能力　　　　　）障碍

　 IQが70未満

　 学力領域・社会性領域・生活自立領域

* （　　　学習　　　　　）障碍

　（　　　算数　　　　　）障碍

　（　　　読字・書字　　　　）障碍

* 神経発達障碍　３
* （　　　コミュニケーション　　　　　）症

　言語症

　語音症

　吃音，小児期発症の流暢性症  
　社会性コミュニケーション症（語用論）

　特定不能症

* 神経発達障碍　４
* （　　　自閉スペクトラム症　　　　　）

・コミュニケーションにおける障碍（コミュニケーション）  
・限定された反復する様式の行動、興味、活動（こだわり）

* 男：女＝４：１
* 一万人に３～４人程度
* サヴァン症候群（10人に1人：映画「レインマン」）
* 治療法はないが、「生きづらさ」を改善するサポートが必要。
* 発達障碍
* （　　　自閉スペクトラム　　　　）症
* アスペルガー症候群（高機能性自閉症）

　ドナ ウィリアムズ　「自閉症だったわたしへ」

　テンプル・グランディン

* （　　　TEACCH　　　　　）（Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped CHildren ）
* 「構造化された指導」→学習を容易にする
* 地域で自立した生活ができるように援助する
* 神経発達障碍　５
* （　　　ADHD　　　　　）
* Attention-Deficit/Hyperactivity Disorders
* 注意欠陥・多動性障碍
* 注意の転動性が高い、不注意
* 多動性、落ち着きのなさ
* 衝動性
* （坂本龍馬、レオナルド・ダ・ビンチ、エジソン）
* 12歳以上の約６％
* リタリン →　（　　ADHD　　　　　　）
* 発達心理学　（　　コンサータ　　　　　　）
* 親ができること

食事（果糖ブドウ液糖、炭水化物）

睡眠、運動（一人でできるスポーツ）

自信を失っていることが多い

* 目標を持たせる
* 良い行動、良いところをほめる（報酬システム）
* 完璧な行動を期待しない
* リタリン（ドーパミン）を考慮に入れる

　　→　（　　　　　　　　） 、ストラテラ（ノルアドレナリン）

* 参考文献
* こころはどのように遺伝するか

　安藤寿康　講談社ブルーバックス

* カプラン臨床精神医学テキスト　医学書院
* 異常心理学　誠信書房
* DSM-5を読み解く　中山書店
* 子どもの脳の発達　臨界期・敏感期

　 榊原洋一　講談社α新書